

井上眼科だより

Inouye Eye Hospital NEWS

2018.07
vol.105



特集

「理事長就任10周年インタビュー」 「大宮・井上眼科クリニック 2周年 & 新院長就任」

はじめまして、野崎令恵(のざき のりえ)と申します。6月から大宮・井上眼科クリニックの院長となりました。

どうぞよろしくお願ひいたします。

私は、2007年より西葛西・井上眼科病院、お茶の水の井上眼科病院で一般眼科外来をはじめ、角膜、感染症、網膜硝子体、神経眼科、白内障、緑内障など幅広く診療を行ってまいりました。大宮・井上眼科クリニックでも、開院当初に小児眼科外来を担当しておりましたので、今回院長として勤務することになり、大変嬉しく思っています。

当クリニックは、一般眼科外来に加え、緑内障、神経眼科、小児眼科の専門外来を設け、さまざまな疾患に対応する身近な眼科クリニックであると同時に、白内障、網膜硝子体の日帰り手術も可能な設備の整った施設です。医師をはじめ看護師、視能訓練士、診療助手、受付事務、全ての職員がそれぞれの専門家とし

て、連携を取りながら患者さまに安心していただける医療サービスをご提供してまいります。

また、糖尿病、甲状腺、脳神経など、眼の疾患とつながりがある病気についても、地域の医療機関との連携に力を入れてまいります。

日々の診療では、来院してくださる患者さまに笑顔になっていただけるよう、家族のように接することを心がけております。これまで大宮・井上眼科クリニックに通院していらした患者さまには、引き続き安心して通院いただけるように、また、新しく通院していらっしゃる患者さまにも、全ての患者さまにご満足いただけるよう、スタッフ一同、心をこめて対応させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

大宮・井上眼科クリニック院長 野崎 令恵

井上眼科病院グループ

Advanced medical care for all generation

INOUE EYE HOSPITAL since 1881

理事長就任10周年インタビュー

医療法人社団済安堂 井上眼科病院グループの理事長に就任して10年の節目を迎えた井上賢治理事長に、この10年を振り返って、患者さまへの思い、医師、職員への思い、ご自身について伺いました。

理事長に就任されて、10年という節目の年になりましたが、振り返っていかがですか？

2008年6月に井上眼科病院グループの理事長に就任した際に、病院を活性付けるために自分にできることは何かをまず考えました。患者さまにとっても、医師・職員にとっても良いことは何か熟慮して、「新しい、進化していく病院をつくる」こう」という考えにたどりつけました。

2014年にお茶の水・井上眼科クリニックに「屈折矯正外来」を開設。多様化する患者さまのニーズにお応えできる医療サービスを目指し、保険外診療を行なう専門外来をスタートしました。

2015年には西葛西・井上眼科病院を現在の場所に統合・移転しました。院内のサイン、動線、音、光などのユニバーサルデザインを取り入れ、色や形、表示など細部まで工夫し「患者さまにやさしい病院」を追究しました。

そして2016年に「大宮・井上眼科クリニック」を開院したのは、患者さまの声や利便性を考えてのことでした。私も緑内障外来を大宮で診察していますが、患者さまから「通院しやすくなった」という嬉しいお声を聞くことができ、大宮に開院してよかったです。

特に、西葛西・井上眼科病院が、「医療福祉建築賞2016 準賞」を受賞したことは、私たちの想いを評価してもらえてとても嬉しかったです。

患者さまの診察の際に、大切にしていることは
どのようなことでしょうか？

私は主に緑内障を専門としていますが、緑内障は治療を継続していくことがとても大事なので「患者さまとともに歩んで、診療にあたる」ということを大切にしています。患者さまには病気のことを理解していたり、一緒に治していきたいと日々考えています。しかしながら、お待たせしてしまう患者さまには大変申し訳なく思っています。それでも来てくださる患者さまがいることがありがたく、だからこそ、一人ひとりの患者さまにご満足いただける診療がしたいと思っています。

医療法人社団 済安堂
井上眼科病院グループ理事長
井上 賢治



井上眼科病院グループの今後についての
お考えを聞かせてください

当院は、今年で創立137年となる眼科専門病院として、やはりどんな疾患にもしっかりと対応できる専門医がそろっていることが、患者さまへの信頼や安心につながると思います。自分が患者だったらどんな治療を受けたいか、新しい良い治療法も取り入れながら、これからも「眼の総合病院の確立」を目指してまいります。

また、当院グループ施設に取り入れているユニバーサルデザインは「視覚に障害があるなしに関係なく、みんなに使いやすい、わかりやすい施設」を目指しています。この考えを院内にとどまらず、世の中に広げていけるよう、はたらきかけていきたいと思います。

理事長ご自身がこれから挑戦してみたいことなどありますか？

挑戦ということではないのですが、これからは少し仕事以外の楽しみも見つけられたらと思っています。いろいろなものを見たり、聞いたり、もっと見識を広めていきたいと思います。

あとは、健康第一に、自分の体力を過信せず、ちゃんとメンテナンスをしないといけないと感じています。孔子曰く「50にして天命を知る」だそうなので、まだまだこれからもがんばっていきます。

最後に、患者さまへメッセージをお願いいたします

診察の際に患者さまには「ご自分の眼を気づかってください」とよくお話をしています。自覚症状がない場合など、目薬をさすタイミングをおろそかにしてしまったり、経過観察の通院を先延ばしにしてしまったりしてしまう気持ちもよくわかりますが、決められた治療をしっかりと続けることで、今の視機能の改善や進行の抑制ができるので、大事に考えていただきたいと思っています。

これからも医師、職員一同、患者さまとともに歩み、気持ちに寄り添える医療を実践してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



全国で活躍中の井上眼科OBの先生方を紹介！

江本眼科

江本 有子 院長

2006年～2007年 井上眼科病院
2008年～2010年 井上眼科病院 非常勤



駅ビルから直結で雨の日も安心です

江本院長(右)と当院の井上(左)

今回ご紹介するのは、東京都足立区の「江本眼科」院長 江本有子先生です。在職中の思い出は「井上眼科病院が主催した『国際神経眼科学会』で症例発表の機会をいただいたこと、世界中の神経眼科の先生方と直接お話ししたこと、さらにアメリカの眼科研究所に留学させていただいたことが、人生の宝物となりました」とお話くださいました。江本眼科は駅ビルに直結していて、雨の日でも利用しやすく、車いすの患者さまでも安心してご来院いただけます。また当院とは電車15分ほどの距離ということもあり「井上眼科病院との病診連携を通じて、患者さまにご安心いただいています」と、

お話をくださいました。また、当院に勤務していたことを頼りに受診してくださる患者さまもいらっしゃるとのこと、「歴史ある井上眼科病院ですばらしい先輩方が作り上げてきた信頼感に恥じないよう、身の引き締まる思いがいたします。」とお話をされました。日本神経眼科学会認定の神経眼科相談医である江本先生。「片側顔面けいれんや眼瞼けいれんに対するボトックス治療も行っております。物が二重に見える、さまざま目の不調などがあればご相談ください。」お子さまからお年寄りまで、みなさまのホームドクターとして、丁寧でわかりやすいご説明を心がけていらっしゃいます。

クリニック情報

江本眼科

〒120-0026 東京都足立区千住旭町42-2 ルミネ北千住店 9階 ☎ 03-6806-1002
ホームページ <http://www.emoto-ganka.com/>